



注目されるローメンテナンス草種の紹介

特にセンチピードグラス・ダイカンドラ・セダムの特性

雪印種苗(株) 千葉研究農場

作物研究室 主任 立花 正

1 はじめに

緑化場面では、その美観の維持から刈り取り、施肥、散水等の管理作業が必須となる場合があります。しかし、より効率的に、かつ、少費管理しようという傾向も強いことから、緑化植物に対して、今まで以上に強く、ローメンテナンス(省力)管理ができる草種の開発が望まれています。

緑化場面にはゴルフ場やサッカー場のような高いレベルでの管理を必要とする場所と、ローメンテナンス管理を余儀なくされる場面に分けられます。前者のような場所は極限られており、そのほとんどは、後者の場面となっています。このローメンテナンス管理を要求される場所で使用される草種も、当然のことながら、特性的にそのような管理に適した草種が必要となります。また、芝生地以外に屋上緑化や水田畦畔、遊休地のように緑化場面も多様化している最近の状況を考慮すると、ローメンテナンス草種が大いに有効となります。

2 草種のご紹介

1) センチピードグラス

草種の特性

センチピードグラス(学名:*Eremochloa ophiuroides*, 和名:ムカデシバ)は、東南アジア原産の暖地型芝草です。主に地上匍匐茎で増殖し、その伸長速度は非常に早く、その形状はノシバに似ています。そして、その密生度は高く、ノシバを凌ぐほどで、完成したセンチピードグラスの芝地の中へ雑草が侵入する量は少なく、芝生として使用する場面だけではなく、畦畔などののり面保護やグラウンドカ

パープランツなどの利用用途で草種を選定する上では、大事な着眼点になります。また、耐乾性、耐暑性等に対しての環境耐性にも優れており、かつ、肥料要求量が少ない点や、放任状態でも草丈が20~30cm程度であることも大きな特徴です。種子の発芽や初期生育は遅い方ですが、ノシバよりも早く、初期養生に注意すれば比較的容易に種子から芝地を造成することができます。

利用が期待される場面

本草種は、ターフとしての利用はもとより、その特性から、無刈取り条件となるのり面や最近では水田の畦畔での利用も注目され、各地で利用される場面が多くなっています。したがって、現状では利用場面として以下の4点が上げられます。

ターフとしての利用 センチピードグラスは冒頭に書いたようにノシバに似た形状のターフを形成し、25~30mmの刈り高には十分耐えることから、ノシバに代わるターフとして利用が可能です(写真1)。

のり面での利用 耐暑性、耐乾性に優れ、肥料要



写真1 芝生として利用されるセンチピードグラス

求量が少なく草丈が低い特性と、種子から造成した場合に、ノシバよりターフ形成速度が早い点から、のり面での利用も行われています。実際に、国土交通省北陸地方建設局でノシバに代わる植生を検討する試験栽培において、このセンチピードグラスが注目され、栽培マニュアルが作成され、普及されています。

水田畦畔での利用 一般のり面で利用が可能であることから、水田の畦畔での利用にも注目されており、試験場（長野県南信農試：本紙の平成13年4月号で紹介）や各地の農業改良普及センターでの試験・試作でも高い評価を受けています。

畦畔で利用する場合の大きな問題点として播種方法をどうするかという点があり、現状で考えら

れる播種方法は、その畦畔の状況によって、パラ播きや種子と養生剤、粘着剤を混合し、手で播きつける方法があります。この方法ではコロニー状態で播種することになりますので、全面を覆うまでには若干の年数が必要になります（写真2～4）。また、播種当年から翌年までにかけては、雑草の発生も予測されますので、特に播種初年目は数回の掃除刈りが必要ですが、センチピードグラスの密度の上昇と共に刈り取り回数は減少するはずです。掃除刈りの際には、雑草を対象に刈り取り、センチピードグラス自体は極端な低刈りにならないように注意します。

【畦畔に導入する場合の播種方法】

新規に造成された畦畔；播種後、コモワラやベンネット等の被覆資材を使用することによって発芽・定着が促進されます（写真5）。



写真2 斜面に養生剤と一緒に播かれたセンチピードグラス（当社千葉研究農場。6月）



写真4 乾燥状態の斜面でも生育しているセンチピードグラス（当社千葉研究農場。8月）



写真3 養生剤の中から発芽しているセンチピードグラス（当社千葉研究農場。7月）



写真5 センチピードグラスを播種した後に被覆資材（ベンネット）を使用した例

既存の植生（雑草）がある場合；ラウンドアップ等によって、既存の雑草を処理した後に、刈り取りによってできるだけ茎葉を取り除いてください。刈り取るタイミングとしては、除草剤を散布した雑草が褐変し始めた時点とし、可能な限り低く刈ります。その後上記に示したような方法で播種をします。

放牧草地への利用 暖地（主に九州）において、放牧草地への利用も試験的に導入され始めています。従来使用されていたノシバ草地と同様に利用が可能であり、嗜好性も良好です。

播種量

初期の雑草との競合と早期の密度の上昇を期待すると最低10g / m²の播種が必要であると考えら



写真6 センチピードグラスを10g / m²播いた場合の10日後の発芽状況。
(当社千葉研究農場内の温室で試験の状況。5月)



写真7 センチピードグラスを10g / m²播いた場合の44日後の生育状況。
(当社千葉研究農場内の温室で試験の状況。6月)

れます。しかし、ランナーの伸長が非常に旺盛であることから、播かれる場所に雑草が少なく、散水等の初期養生ができる場合には5g / m²程度でも緑化は可能です（写真6,7）。

栽培上の留意点

センチピードグラスの特性を生かす上で、以下のような点に留意して栽培することをお勧めします。ただし、栽培地域（特に北限）について十分把握できていない点があり、当社では一昨年以来、東北地域（秋田、岩手）での試験栽培を行い、確認をしております。

播種時期：5月中旬～8月上旬。暖地型草種であることから、日平均気温が20℃を超えるようになってから播種すると、発芽までの日数が短く順調に生育します。したがって、関東では5月中・下旬以降が適期であり、8月上旬には播種作業を終えるようにします。なお、梅雨明け以降は高温乾燥により発芽、定着が不安定になりますので、被覆資材の使用や散水を考慮してください。

栽培可能地域：-10℃程度の低温に耐えることが確認されています。また、北陸、東北地方でも積雪期間の短い場所での生育は可能と考えられます（例：富山、新潟、秋田等の海岸寄りの地域や仙台から岩手内陸）。

施肥量：窒素成分量で一年間に5～10g / m²と窒素要求量は低く、無肥料でも十分生育可能です。多肥栽培では生育が劣るといった報告もあることから、施肥を行う場合には、前述の年間窒素量を上限とするように、春と夏に分肥します。

刈取り高さ：25～30mm以上。ターフとして管理する場合にはこの刈り高より下げないようにして下さい。

2) ダイカンドラ

草種の特性

ヒルガオ科アオイゴケ属の地被植物で、地上匍匐茎によって広がり、草丈は低く、葉は丸くシロクローバに似ています。低く刈りこむこともでき、また、耐陰性も強い性質があります（写真8）。

利用が期待される場面

あまり踏圧がかからない場所や、頻繁に刈り込むことが難しい場所で芝生の代わりに使用するこ

とができます。また、日陰地でノシバやコウライシバ等の芝生が生育しにくい場所に利用すること



写真8 雪印系ダイカンドラの草姿



写真9 果樹園の樹の下（半日陰地）で利用される雪印系ダイカンドラ（茨城県）

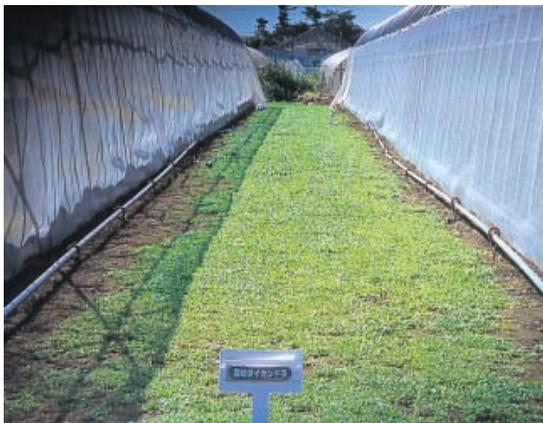


写真10 ハウスの間で利用される雪印系ダイカンドラ（当社千葉研究農場）

もできます（写真9, 10）。

播種量

初期の雑草との競合と早期の密度の上昇を期待すると最低10 g / m²の播種が必要です。しかし、ランナーの伸長が旺盛であることから、5 g / m²程度でも緑化は可能です（写真11, 12）。

栽培上の留意点

播種時期：5月中旬～8月上旬。日平均気温が20℃を超えるようになってから播種すると、発芽までの日数が短く順調に生育します。したがって、関東では5月中・下旬以降が適期であり、8月上旬には播種作業を終えるようにします。

栽培可能地域：関東以西の積雪がない地域。または積雪期間の極めて短い地域を主体に使用しま



写真11 雪印系ダイカンドラを10 g / m²播いた場合の10日後の発芽状況。
（当社千葉研究農場内の温室で試験の状況。5月）



写真12 雪印系ダイカンドラを10 g / m²播いた場合の44日後の生育状況。
（当社千葉研究農場内の温室で試験の状況。6月）

す。

施肥量：日陰地で利用する場合には、無施肥栽培も可能と考えられますが、陽地で栽培する場合や刈り取りを行う場面での利用の場合には、少肥管理ではやや生育が劣る場合がありますので、生育状況を確認しながら追肥を行います。

灌水：極度の乾燥は嫌いますので、降水量が少ない時期には適度な散水を行います。

3) セダム

草種の特徴

ベンケイソウ科の宿根草で別名「万年草」とか「弁慶草」とも呼ばれています。

セダムは乾燥が激しく、養分が少ない岩の上などのように、他の植物が生育できないような環境下でも生育できる植物です。ヨーロッパでは屋根を緑化する場合にも多く利用され、日本においても近年都市部を中心にビルの屋上緑化の材料として広く使用されています（本紙平成14年10月号で紹介）。

セダムの大きな特徴は、下記の5点が上げられます。

- ・耐乾燥性が非常に強い。
- ・無施肥栽培条件下でも生育可能。
- ・草丈が低く、刈り込み作業が不要。
- ・薄い土壌（生育基盤）でも生育可能である。
- ・黄色、白色、赤色などの花が鑑賞できる

利用が期待される場面

屋上や屋根等での緑化に際して、散水や施肥などのメンテナンスを軽減できる植物として注目され、建築物の上で緑化する場合に、生育する基盤（土や人工土壌）を薄くすることが可能なことから、建物への加重を少なくすることができます（写真13参照）。

栽培上の留意点

セダムは多肉質の植物で、踏圧には弱いことから、人等の踏圧のかからない場所に利用します。

また、排水不良の地盤や日陰地では生育が緩慢になるため、日当たりが良い場所で、かつ、排水の良好な基盤を選択するとともに、施工する場所にも配慮が必要です。

4) その他

以上、ご紹介した3草種は草丈が低く、刈り取



写真13 屋上で利用されるセダム・メキシコマンネングサ（東京都。8月）

りや肥培管理が容易な点でローメンテナンスが可能な草種となります。しかし、これら以外の草種で、草丈はやや高くなるものの、コスモスやヒマワリのような草花やソバ、または、当社で販売している「クリムソクローバ」「ネマキング」「キカラシ」に代表される景観緑肥作物、草生栽培で普及している「雪印系ナギナタガヤ」も、年に一回の播種で一定期間、手間をかけずに地表面を覆うという点ではローメンテナンス草種といえるものと思います。畑作以外の場面でも大いに利用価値の高い作物となります。

3 おわりに

センチピードグラス、ダイカンドラ、セダムのように刈り取りと施肥管理上、省力的な管理が可能な草種を中心にご紹介しました。しかし、後段で記載したように、従来から使われていた草種についても、視点をかえる事によって、ローメンテナンス草種と言える場合もあり、特に、遊休地においては利用価値が高いと思われます。

当社においては、牧草での研究開発の歴史を基に、芝生や植生工事に利用される草種の開発から景観を重視した緑肥作物まで、環境に配慮した草種の開発を幅広く行っております。そのような背景から、ローメンテナンスを要求される緑化場面に対しても対応することが可能な草種を具体的に提案できるものと確信していますので、気軽に御相談頂ければ幸いです。